

◎ 特別展「煌めきの洋食器ー山五陶業と GOLDEN STATE PORCELAINー」

瑞浪市陶磁資料館 学芸員 砂田 普司

瑞浪市は岐阜県的美濃地方の東部(東濃地方)に位置し、多治見市・土岐市とともに美濃焼の産地として知られている。中でも、瑞浪市南部に位置する陶町は、明治時代から洋食器の生産地として栄え、戦後には曾根磁叟園製陶所、金中製陶所、山五陶業が日本を代表する洋食器メーカーに成長して、「陶の御三家」とも呼ばれた。

しかし、昭和 60 年(1985)のプラザ合意、また平成となってからの消費税の導入、バブル経済崩壊などの影響によって輸出企業たる洋食器メーカーの経営は厳しさを増し、曾根磁叟園製陶所(平成元年にノリタケと合併)は平成 13 年(2001)に工場閉鎖、山五陶業は平成 15 年(2003)に閉業、金中製陶所も平成 21 年(2009)に閉業に至り、また中小の陶磁器メーカーの廃業・閉業も相次いでいる。かつて洋食器生産のメッカであった頃の勢いは現在みられず、人々の記憶からも次第にこれらの歴史や貴重な資料が失われてしまうことが危惧される状況にある。

そのため当館では、廃業・閉業したメーカーから陶磁器や写真などの様々な資料を譲り受け、資料として保存するとともに、展覧会で展示・公開する等の事業を行っている。また主要なメーカーの歴史をまとめた図録、「山五陶業略史」(平成 20 年)や「金中製陶所略史」(平成 22 年)を刊行し、その資料の書籍化にも取り組んでいる。

そして昨年、山五陶業が米国に設立した絵付け工場「GOLDEN STATE PORCELAIN」(ゴールデン・ステート・ポーセレン。以下「GSP」。)で製造された 800 点余りの資料をご寄贈いただき、本年の 10 月 31 日から当館に於いて、それらの資料(洋食器)を展示する特別展を開催することとなった。そこで以下では、特別展をご覧いただく際の予備知識として、山五陶業と GSP の歴史や生産品について解説を行いたい。なお、文中では敬称を省略させていただいたので予めご了承ください。

・山五製陶所の創業と発展

山五陶業は、明治 5 年(1872)に伊藤五郎衛門が恵那郡猿爪村(現・瑞浪市陶町猿爪)で創業した「山五製陶所」を前身とする。当初は国内向けの飯碗や小皿などを生産したとみられるが、早くも明治 20 年代には輸出用洋食器の生産に着手し、明治 30 年代には名古屋での販売拠点「山五商店」を設置していたようである。明治末頃には 30 人ほどの従業員を抱える製陶所に成長し、明治 30~40 年代に開催された博覧会などへの出品・受賞を重ねている。

そして大正 7 年(1918)、その経営が三代目の伊藤嘉一に引き継がれると、山五製陶所は石炭窯やトンネルミル・機械ロクロの導入など、急激に近代化を遂げた。昭和 10 年(1935)頃には戦前における生産の最盛期を迎えて、Y.S.(Yamago Seitōjo)ブランドとして広く知られるようになった。

そして山五製陶所では、当時の洋食器の中でも最高級品とされたディナーセットの開発に着手し、昭和 13 年(1938)にその生産を開始した。絵付け業者は争って山五製陶所の白素地を求め、山五製陶所の市場評価は大いに高まったという。

・戦中・戦後の状況と山五陶業の誕生

昭和 12 年(1937)のパネー号事件などにより日米関係は極度に悪化し、翌年にはアメリカへの輸出が困難となりつつあったことから、山五製陶所では国内のホテル・レストラン向けの高級染付洋食器を生産し

た。しかし、次第に原料や燃料が不足したため生活用品としての陶磁器生産は不可能となり、電波機器に用いるステアタイト(滑石磁器)の生産を余儀なくされた。

終戦を迎えると山五製陶所では直ちに食器生産を再開し、米国帰還将兵用のディナーセットの生産にも着手した。昭和 22 年(1947)に制限付きながら貿易が再開すると、ディナーセットの販売は好況を博して着実に業績を伸ばし、昭和 26 年(1951)1 月には、それまで伊藤嘉一の個人経営であった山五製陶所を資本金 800 万円とする「山五陶業株式会社」へと改組し、ここに山五陶業が誕生した。

・高度経済成長とドルショック・オイルショック

昭和 30 年代を迎えると、山五陶業は従業員 300 名を超えるメーカーへと成長し、昭和 36 年には伊藤嘉一が会長へ退き、若き伊藤洋三が社長に就任して陣頭指揮をとることとなった。まもなく山五陶業では、苗木粘土(苗木カオリン)など新原料の導入、銅版転写を用いたディナーセットの開発など改革に努めたが、昭和 40 年代後半に始まったドルショック・オイルショックの影響は深刻であった。

そして、その打開策として注目されたのがニュージーランドカオリンであった。ニュージーランドカオリンは、素地の白色度を向上させる効果が期待されたものの可塑性や収縮度などに難点があり、安定的な生産は困難であった。そのような状況にあって、山五陶業では昭和 50 年(1975)頃にいち早く試作を開始し、新たな成形機の導入や独自の原料配合によって量産化を実現した。誕生した製品は「特白磁器」と呼ばれ、「ホワイトシャドウ」と名付けられた商品は昭和 51 年(1976)から販売されて好評を博するとともに、同 53 年頃から東濃地方の陶磁器業界にニュージーランドカオリンが普及する契機ともなった。しかし、昭和 54 年(1979)には伊藤洋三が急逝し、伊藤春生が社長に就任した。

・ウルトラホワイトとイングレイズディナーの生産

そして、ホワイトシャドウによって素地の白色度が注目を集める中、山五陶業ではこれをさらに発展させ、昭和 57 年(1982)には究極の白い器「ウルトラホワイト」を完成させた。「ウルトラホワイト」は、ホワイトシャドウの素地にアルミナ使用等の改良を加えたもので、白色度 92.4%という数値を達成し、また強度も大きく、急激な温度変化にも耐えられる等の特性を有する素地で、これ以後の山五陶業の主力素地としてディナーセットをはじめ、ホテルウェアや中華食器などにも使用された。

また、イングレイズとはシンクインとも呼ばれ、上絵と同様に釉薬の上に絵付けを行い、高温で焼成することで顔料を釉薬の中へ浸透させる技法である。下絵製品と同様に耐摩耗性に優れながら、上絵製品のように顔料の有害物質が溶け出す恐れが無いという特性を有する絵付け技法である。

イングレイズ製品の商品化が進んだのは、昭和43年(1968)に米国で日本製食器の鉛毒問題が生じてからであった。昭和40年代前半にはイングレイズ技法で多色絵付けがなされるようになっていたが、焼成温度が約 1300℃と高温であったことから高コストで、上絵付け製品ほどの発色も得られていなかった。山五陶業でも昭和50年代以降イングレイズ製品の生産に乗り出していたが、染付風の単色絵付けを主とするものであった。そこで様々な実験の結果、焼成温度を 1200℃程度に下げることになり、発色も上絵付け製品に遜色ない多色絵付けのイングレイズ製品が生産されるようになった。

・GOLDEN STATE PORCELAIN の設立と閉業

平成 3 年(1991)以降、イングレイズ技法を用いたディナーセットの生産を本格化させ、食器の鉛規制を強化しつつあった米国への輸出に大きな役割を果たした。しかし、前年にはバブル経済の崩壊が始まりつつあり、平成 7 年(1995)には 1ドル≒80 円という空前の円高を迎えて、輸出企業には極めて厳しい状況を迎えつつあった。

そのため山五陶業はアメリカ進出を決断し、平成 4 年(1992)米国カリフォルニア州サンタマリアに絵付け工場・GSPを新設した(通称:アメリカヤマゴ)。日本で生産した素地を輸入して絵付けを行い、完成品として米国市場で販売したのである。この工場にはピーク時には約 150 名の従業員がおり、以下のような世界の名だたるメーカー・ブランドの製品を生産(委託生産)して、ディナーセットのほか額皿(コレクターズプレート)などにも絵付けを行った。

BERNARDAUD(ベルナルド)

DANSK(ダンスク)

LENOX(レノックス)/TIFFANY(ティファニー)

WEDGWOOD(ウェッジウッド)

Christian Dior(クリスチャン・ディオール)

FITZ & FLOYD(フィッツ&フロイド)

WATERFORD(ウォーターフォード)



シャトーブーケ／BERNARDAUD



トリアノン／Christian Dior



チボリガーデン／DANSK



レバンド／FITZ & FLOYD

また、創業後まもなく額皿のビジネスが急速に成長したことから、平成 7 年(1995)9 月にはカンザス州オタワ市に、額皿絵付け専用工場(子会社)としてハートランドチャイナ(Heartland China)を設立した(1999 年には譲渡)。

このように好調なスタートを切った GSP であったが、バブル経済崩壊の余波は大きく、平成 9 年(1997)以降景気は極度に悪化しつつあった。また、この頃には中国などの安価な製品が流通量を増しつつあり、低価格競争に拍車がかかっていた。そのため日本国内の工場では人員削減を余儀なくされ、これにより品質管理などに困難をきたすようになり、ついに平成 15 年(2003)12 月、山五陶業・GSP はその歴史に幕を下ろすことになった。



サマーテラス／LENOX



アルファベットベアーズ／TIFFANY



タウン&カントリー／WATERFORD



フルール／WEDGWOOD

なお、特別展の概要は以下の通りで、上記品の写真などを掲載した図録も刊行する。ぜひ、ご来館ください。

【展覧会情報】

特別展「煌めきの洋食器

ー山五陶業と GOLDEN STATE PORCELAINー

会期： 2020年10月31日(土)
～2021年2月28日(日)

会場： 瑞浪市陶磁資料館

開館時間： 9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日： 毎週月曜日、祝日の翌日、
年末年始(12/28～1/4)
資料整理休館日(12/1、2/2)

入場料： 一般200円、高校生以下無料

問合せ： 瑞浪市陶磁資料館
〒509-6132 岐阜県瑞浪市明世町山野内1-6
TEL 0572-67-2506

